



地域交流活動かわら版

『地(知)の拠点大学による地方創生推進事業』で 連携する岩手との取り組みを実施

杏林大学では、2015年度より岩手大学の『地(知)の拠点大学による地方創生推進事業』に参画し、首都圏大学として地域における雇用創出やインターンシップの促進に力を注いでいます。

◆全学必修科目「地域と大学」 ～岩手大学より教員を招聘～

7月19日(金)「地域と大学」の第15回目の授業にて、岩手大学から3名の講師の方をお招きし、リレー形式で講義を行って頂きました。先生方からは、岩手大学COC+事業の根幹とも言える「いわてキボウスター開拓塾」(社会の中でリーダーとなり、地域活性化に取り組む人材を育成するための道場)、「地域志向型インターンシップ」(就活での選択肢を増やすための手段の1つ)、「ふるさと発見!大交流会」(就活前に大学1・2年生がリアルな岩手の企業の声を聞ける場)の3つの取り組みを中心にお話をしてもらいました。

熱心に聞き入る学生たち



◆岩手県「復興創生インターンシップ」 相談会を開催しました

岩手県釜石市での「復興創生インターンシップ」の相談会を実施しました。今回の相談会には、「パソナ東北創生」のコーディネーターをお招きし、インターンシップについて学生から寄せられる様々な質問に答えていただきました。また、昨年度3月にインターンシップに参加した先輩学生も出席し、実際の感想や失敗談などを話しながら、実践型インターンシップについて丁寧に紹介してくれました。杏林大学では、これまで培った「地域社会の拠点」の実績とともに、今後もこのような地方創生を担う人材育成のための取り組みを推進していきます。

先輩も交えて相談中



『高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム』 意見交換会を開催しました



意見交換会

7月24日(水)に、前期を終えての意見交換会を行いました。地域交流推進室石井副室長と井上先生、履修生11名が、軽食を囲み、和やかな雰囲気の中にもそれぞれの熱心な学びの様子を伺うことができました。



沢田恵重さん

2019年～履修

実際に授業を受けてみて、面白くて夢中になった科目があり、杏林にはいい先生がおられるなと思いました。地域活性化の理論と実践を学ぶ「特別講座B」は履修生で活発に動くことが出来て楽しいです。履修生同士のつながりはもちろん、行政の人や市民の人たちともつながりを作っていくことの重要性を学びました。



湯川映子さん

2017年～履修

心理学に興味があったので「カウンセリング」の授業を履修し、学ぶうちに自分のやりたいことや、さらに知りたいことが見つかりました。また、この授業は保健学部の学生と一緒に受けたのですが、授業を通じて学生(若い人)が何に興味があるのかを知ることが出来たのも良かったです。

授業中の受講生



大瀧純一学長の講座が最終回を迎えました

7月25日(木)八王子学園都市センターにて、本学学長 大瀧純一先生による 講座「高齢者における心の健康とは～心身ともに健康で生きることの難しさ～」が最終回を迎えました。今回は講座終了後に行ったインタビュー記事を一部抜粋してお届けします。

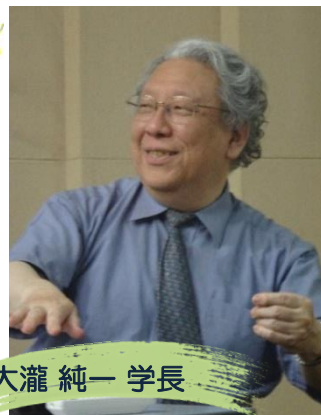
大瀧先生へのロングインタビューより

この講座の目的1つは、「最期を迎えるとき、人はどうなっていくのか」を理解してもらうことでした。結局、亡くなるまでの状態だとか時間だとか、そういったことを分かっていないと人は勝手な判断をしてしまうわけです。例えば、講座でも話したように、死が近づくとつれて食事量は減っていきます。体は食べたくないと言っているのに、「食べないと体が弱ってしまう」と考えて無理して食べているのは、逆に悪影響を与えてしまう。死に向かって時間をかけてゆるやかに準備をしている体の妨げになってしまうのです。このような知識があるだけで、自身の死、あるいは身近な人の死に対して準備する時間が持てるようになることも重要です。

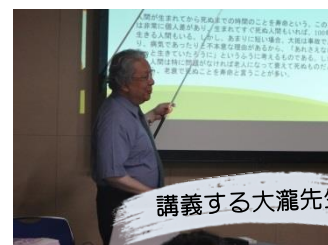
受講者のみなさんが、最初から最後まで大変熱心でした。初回授業の時に「分からないことがあったら聞いてください」と言っていたのですが、毎回多くの質問があって、授業時間がギリギリになってしまうこともあったほどです。それは、「死」というものを具体的に考え始める年齢の方が多かったからでしょう。誰もが自分に置き換えて聞いている様子が見ていて分かりました。人生の最期について「苦しみに耐えながら迎えるものだ」と言われたら、誰だって絶望してしまいますよね。そうじゃないんだよ、ということを伝えたいんです。

「いちょう塾」は講座数が豊富ですが、その多くは文化的な内容で、歴史とか文学とか、受講者の方々は自分の趣味や興味に沿って選択しますよね。今回私が教えたことは、興味のあるなしに関わらず誰もが経験する内容です。そういう話は病院ではしてきたけど、講座として行ったことが無かったので、このような取り組みが出来たのも普段からバラエティに富んだ内容を提供している「いちょう塾」があったからこそだと感じています。

→全文は大学HPからご覧になれます <http://www.kyorin-u.ac.jp>



大瀧 純一 学長



講義する大瀧先生



真剣な受講生の方々

三鷹市内の中学校においてBLS指導を実施しました



学生と一緒に実践！

夏休みを前にした6月～7月の間に、保健学部の学生が三鷹消防署職員とともに、三鷹市立中学校3校、計473名の生徒に対して、BLS(一次救命処置)指導を行いました。指導にあたった学生は、「初めは緊張しましたが、少しずつ慣れて中学生も指導についてきてくれたので、自信になりました。」と話しており、実施した中学校の校長先生からは、「年代が近い大学生からの指導は、子供達にも新鮮で大変よい取り組みです。来年もぜひ指導をして頂きたい。」との声もいただきました。

コメント・写真提供ご協力: 保健学部救急救命学科 阿部和巳先生

atrévie



『みたからWEB』サイトオープン！



アトレヴィ三鷹の地域情報メディア『みたから』がフリーペーパーからWEBサイトへリニューアルしました。街づくりや地域活性化を学ぶ総合政策学部 進邦ゼミの学生による、三鷹の魅力的なスポット、ヒト・コト・モノを発信していく連載記事も掲載されていきます。

お楽しみに